事業別環境影響フロー【砂防・治山】

事業の段階	事業において想定される配慮	環境への影響	環境配慮の内容 （要綱の環境配慮事例）	要綱の個別配慮事項番号
計画に係る環境配慮	場所選定における配慮	自然環境の改変	□複数場所の検討 □希少動植物の生息地の回避 □希少動物の営巣時期に配慮した工事計画	自①，自②
		文化遺産の消失	□指定文化財や埋蔵文化財包蔵地等の回避	景②
	施設構造等	水質汚濁等 生物生活空間の悪化	□多自然型の護岸の整備 □水辺植生の保全と活用 □自然石を使用した2面式護岸の整備 □蛇行，瀬，淵，ワンドの保全と創出	大①，快①
		生活空間の悪化	□親水性護岸，景観保全護岸の設置	快②
工事中に係る環境配慮	工法等に係る配慮	環境負荷の増加	□一時期に負荷が集中しない工事計画策定	大④
	工事全般	自然環境の改変	□配慮が必要な魚類等の繁殖・産卵期の配慮 □貴重な動植物の移動・移植 □ホタル護岸，魚巣ブロックの設置 □中州や湿地帯等の水辺の多様性等の確保 □魚類・昆虫・植生等に配慮した構造	自①，自②，自④
	土工（土の攪乱）	水質汚濁	□汚水・濁水の発生を抑えた工法の検討 □工事区域の仮締切，切り回し水路の設置 □工事に伴い発生する汚水の処理 □沈砂池，調整池の設置	大③
	廃棄物の発生	廃棄物の増加	□廃棄物の発生を抑制した事業計画の策定 □廃棄物の再資源化，適正処理等 □伐採木等の林地還元 □県内リサイクル製品の積極的な使用 □再生骨材等の利用促進 □建設発生土の発生抑制，適正処理等	廃①，廃②，廃③，省②
	建設資材	資源・ｴﾈﾙｷﾞｰ消費量増加		
	型枠材の使用	樹木伐採（地球環境）	□型枠の反復使用，再利用 □金属型枠の使用 □間伐材の有効利用	地②
	建設機械等の稼働等	騒音・振動等	□騒音・振動防止に配慮した工法の実施 □低公害型の建設機械等の採用 □防音壁，防音シート等の仮設 □工事車両の走行ルートの分散化	大②
		大気汚染 地球温暖化	□アイドリングストップ，急発進の抑制等 □経済運行速度の遵守	地③
供用に係る環境配慮	周辺環境への配慮	自然環境の破壊	□樹林地の連続性の確保 □動物の移動のための道や水路の確保 □水路や緑地等の復元 □在来種の復元	自③，自⑤
		周辺景観の破壊	□水辺の散策路や親水公園の整備 □地域性のある素材や天然素材の活用 □擁壁の在来樹種による植栽 □既存植生の保全・活用，花きや実のなる樹木による四季感の創出	快②，快③，快④
		生活空間の悪化 歴史的景観の破壊	□構造・形態・色彩等は風土・歴史等に配慮	景①
		資源・ｴﾈﾙｷﾞｰ消費量増加	□太陽光発電，省エネ型照明の設置等	省①
		地球温暖化	□のり面，沿道の緑化 □植生・緑化ブロックの採用	地①

（略号）
大：大気環境，水環境の保全
廃：廃棄物の発生抑制，リサイクルの推進
地：地球温暖化の防止
省：省資源，省ｴﾈﾙｷﾞｰの推進
自：自然環境の保全
快：快適な生活空間の創造
景：歴史的景観の保全，文化遺産の保護